

池田高校 SSH 卒業生アンケート  
高校24期生 Hさん

(聞き手 国語科 原田)

1 まず、あなたは今どのようなお仕事(生活)をされていますか。仕事の場合は、よろしければお立場もお教えください。

医薬品開発受託事業研究員

2 高校時代とはどのような研究をされましたか。

物理班に所属し、シラスを用いた防音壁の研究を行っていた。

3 研究活動の上で、最も印象深かったことは何ですか。

鹿児島大学に訪問し、プレゼン講習を受けたこと。鹿児島大学理学部物理学研究室の先生方三名に自分たちの研究発表を見ていただき、多くの質問とご指摘を受けた。最初は、それまで人前で発表する経験がほとんどなかったうえに、鋭い指摘を専門家の先生から受け、落ち込んだ。しかし、落ち込む時間も無いほど質問が矢継ぎ早に来たため、「研究内容についてもっと深く学ばなければ」と反省し、火が付いた。

4 そここで学んだことはどういうことだと考えますか。

質問で上手く答えられず、「失敗した」と思う要因は、知識不足もあるが、「相手の話の意図をつかめていないこと」なのだということを学んだ。相手の質問の意図を正確に汲まなければ、いくら知識があろうと質問には答えられない。話を聞くことの大切さを体感したと思っている。

5 SSHの学びにより、科学的な感性や好奇心、思考力は伸びたと思われませんか。

伸びたと思う。小中学校の自由研究以外研究をしたことが無かったので、研究という行為自体がとても楽しく、刺激的だった。また、仮説→実験→分析→考察という研究の流れを踏むことにより、論理的な思考力が身についたと思う。

6 プレゼンテーションやわかりやすく話す力や表現力は付いたと思いますか。

付いたと思う。人前で発表をする機会を得られて、場慣れをすることが出来た。また、資料を作る力も身につけることが出来た。

私自身が理学部に進学したことも大きいですが、研究や発表という体験が、大学での学びに直結していたと思う。

7 高校時代が普通の教科学習だけで終わったとしたら、どう違ったと思いますか。

SSH での研究や発表という経験が、大学での研究活動で多いに活かされたので、SSH での活動があるのと無いのでは、その後の学びが大きく違ったと思う。

8 SSH の学びは、あなたの理系選択に影響しましたか。また、研究したことで学習意欲は高くなったと思いますか。

もともと理系を志望していたので、進路選択に直接的な影響はなかった。しかし、研究内容への学習意欲は確実に高まった。また、他の研究発表を聞くことで、その分野への興味関心が高まった。とくに原田豊先生が担当されていた生物班②のアリについての研究には大いに興味を持った。その後の進路選択が鹿児島大学理学部生命科学科生物学研究室でしたので、少なからず影響していたのかもしれない。

9 現在どのような生活を送っていますか。研究(仕事)はどんな様子ですか。

今の自分に役立っているところはどんなところと考えますか。

現在は企業の臨床検査室で、製薬会社から創薬のための非臨床試験（臨床試験の前段階）を受託している。非臨床試験で採取された動物たちの尿検査を担当している。また、事務仕事も担当している。

大学院が修了し、進路を選択する際に、研究ができる環境に進みたいと考えた。そのつながりでこの仕事をしている。研究の楽しさを教えてくれたのは SSH での活動だったので、そういう意味で私の基盤になっていると思う。

10 今後の池田高校のSSHについてどう考えますか。

期待することなどを教えてほしい。

以前、池田中学・高等学校が主催するグローバルサイエンティストアワードの審査員をさせていただいた。その経験から、学生ならではの着眼点を活かした研究をしていって欲しいと思う。大学や社会人は、自分で研究内容やテーマを選べないことが多い。ぜひ学生ならではの着眼点で、自由に研究を行ってほしいと思う。